

「生きがい感」の特徴－生活満足度との比較－

研究の視点：「生きがい感」にはどのような特徴があるか？

安藤令（政策調査員）、西原照雅（前主任研究官）

問題意識

- 「生きがい」という言葉は、人生の意義や目的意識などを含む点で、主観的well-beingのうちエウダイモニアと類似するものと考えられることから、「生きがい」を感じている程度について、OECDガイドラインで示された0～10点の尺度により測定し、生活満足度等との比較を行う。

分析方法と結果の概要

- 生きがい感と生活満足度を0～10点の尺度で測定したアンケート結果を分析。
 - 生活満足度に関する設問：あなたは全体として現在の生活にどの程度満足していますか。「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。
 - 生きがい感に関する設問：あなたは全体として生きる目的や生きる意味といった生きがいをどの程度感じていますか。「全く感じない」を0点、「非常に感じる」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。
- 重回帰分析を行い、生きがい感と生活満足度に影響する生活分野を明らかにした。
 - ✓ 生きがい感のみに影響する生活分野（政治・行政・裁判所への信頼性等）、生活満足度のみに影響する生活分野（自身の教育水準・教育環境等）、両者に影響する生活分野（家計と資産等）があった
- 様々な属性について、生きがい感と生活満足度の平均値を区分ごとに比較し、生きがい感と生活満足度の差に見られる傾向を明らかにした。

考察

- 生きがい感は「周辺環境との関わり」、生活満足度は「自身の状態」と結びつきやすいと考えられる。
- 経済的・社会的・健康面で相対的に不安定な状況にある層では、生きがい感と生活満足度の差が小さくなる傾向から、両者の関係は、個人を取り巻く社会経済的状況や心身の状態によって異なる可能性が示唆されていると考える。

「生きがい感」の特徴－生活満足度との比較－

主な結果

- 全体の平均値は、生きがい感が5.71、生活満足度が5.95。全体の分布は、生きがい感、生活満足度ともにふた山型だが、生きがい感は5点、生活満足度は8点に回答が集中（図1）。
- 重回帰分析（被説明変数：生きがい感・生活満足度、説明変数：生活分野の満足度）の結果は表1のとおり。係数が有意となる生活分野に違いがある。
- 生活分野に関連する様々な属性（世帯の年収及び金融資産、最終学歴、就業状況、健康状態、ストレスの有無、孤独感の有無等）で回答者を区分、生きがい感と生活満足度の平均値を比較した（図2）ところ、
 - 多くの層で、生きがい感よりも生活満足度の方が高い傾向。
 - 世帯年収が相対的に低い層、非正社員の層、周囲の人々への信頼度が低い層、健康状態が悪い層、ストレスが大きい層、孤独感がある層等では、その差が有意ではない傾向。

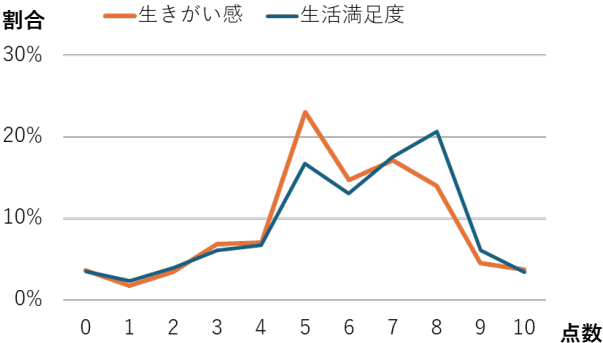


図1 生きがい感と生活満足度の分布（全体）

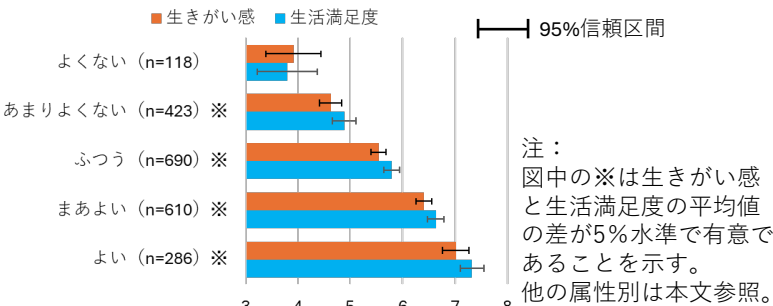


図2 生きがい感と生活満足度の平均値（主観的健康状態別）

表1 重回帰分析の結果

説明変数（生活分野）	生きがい感		生活満足度	
	標準化偏回帰係数		標準化偏回帰係数	
1. 家計と資産	0.082	***	0.200	***
2. 雇用環境と賃金	0.025		0.039	*
3. 住宅	0.034		0.126	***
4. 仕事と生活（ワークライフバランス）	0.053	**	0.050	**
5. 健康状態	0.111	***	0.085	***
6. 自身の教育水準・教育環境	0.037		0.052	***
7. 交友関係やコミュニティなど社会とのつながり	0.160	***	0.129	***
8. 政治・行政・裁判所への信頼性	0.054	***	0.003	
9. 生活を取り巻く空気や水などの自然環境	-0.067	***	-0.013	
10. 身の回りの安全	0.014		0.011	
11. 子育てのしやすさ	0.027		-0.002	
12. 介護のしやすさ・されやすさ	-0.084	***	-0.065	***
13. 生活の楽しさ・面白さ	0.420	***	0.349	***
定数項	0.000		0.000	
調整済み決定係数	0.586		0.702	
サンプルサイズ	2,127		2,127	